

## 諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	1
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	2
3 機能別委員会の開催とその議題	3
4 分野別委員会の開催とその議題	3
5 課題別委員会の開催とその議題	9
6 サイエンスカフェの開催	9
7 総合科学技術会議報告	10
8 慶弔	10
9 インパクトレポート	10

## 第1. 前回幹事会以降の経過報告

### 1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
2月1日(土) ～4日(火)	第101回インド科学コンGRES INSAパネル ディスカッション(インド・ジャンムー)	大西会長
2月4日(火) ～5日(水)	Future Earth in Asia Workshop (京都ロイヤルホテル&スパ)	大西会長、 春日副会長
2月7日(金)	第14回福島県「県民健康管理調査」検討委 員会(福島県)	春日副会長
2月8日(土)	後藤・安田記念東京都市研究所 第37回『都 市問題』公開講座講演(日本プレスセンター)	大西会長
2月10日(月)	公開シンポジウム「学士課程教育における政 治学分野の参照基準」	小林副会長
2月12日(水)	英国大使館主催 「リスク・コミュニケーシ ョン」シンポジウム(英国大使館)	大西会長
2月13日(木)	日本IBM「21世紀を考える会」講演(ホテ ルルポール麴町)	大西会長
2月13日(木)	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長
2月14日(金)	総合科学技術会議有識者議員会合本会議	大西会長
2月15日(土)	学術フォーラム「福島第一原発事故にとも なう放射線健康不安の精神的影響の実態と 地域住民の支援」(福島県立医科大学大講堂)	春日副会長
2月17日(月)	第5回科学技術国際交流研究会(グランドア ーク半蔵門)	春日副会長
2月20日(木)	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長
2月22日(土)	平成25年度日本医師会総合政策研究機構・ 日本学術会議共催シンポジウム「福島原発災 害後の国民の健康支援のあり方について」 (日本医師会大講堂)	大西会長、 春日副会長
2月23日(日) ～26日(水)	フューチャー・アース会議(モントリオ ール・カナダ)	春日副会長
2月27日(木)	総合科学技術会議有識者議員会合	大西会長

(注) 部会、委員会等を除く。

## 第2. 各部・各委員会報告

### 1 部会の開催とその議題

(1) **第一部 拡大役員会** (第13回) (1月31日)

- ①幹事会報告 ②会員・連携会員の改選について
- ③人文・社会科学の振興について

(2) **第三部 拡大役員会** (第24回) (1月31日)

- ①夏季部会について
- ②第23期会員・連携会員の選考について
- ③第三部交流会について ④夢・ロードマップについて ⑤その他

## 2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) **科学研究における健全性の向上に関する検討委員会** (第5回) (1月31日)

- ①臨床試験制度検討分科会からの審議経過報告について ②その他

(2) **フューチャー・アースの推進に関する委員会** (第3回) (2月6日)

- ①分科会設置等報告 ②Future Earth 関連課題の整理
- ③提言取りまとめに向けた討議 ④その他

(3) **若手アカデミー委員会 学術の未来検討分科会** (第9回) (2月6日)

- ①「学術界・若手研究者への期待」に関するヒアリング ②その他

(4) **東日本大震災復興支援委員会 災害に対するレジリエンスの構築分科会**  
(第7回) (2月10日)

- ①提言の取りまとめ ②その他

(5) **科学研究における健全性の向上に関する検討委員会 臨床試験制度検討分科会** (第3回) (2月12日)

- ①提言の取りまとめ ②その他

(6) **東日本大震災復興支援委員会 汚染水問題対応検討分科会** (第3回) (2月17日)

- ①福島第一原発汚染水にかかる日本学術会議の対応について
- ②今後の審議の進め方について ③その他

(7) **フューチャー・アースの推進に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会** (第2回) (2月19日)

①分科会からの提言についての討議 ②その他

(8) **東日本大震災復興支援委員会 福島復興支援分科会** (第7回) (2月27日)

①第1回被災者生活再建小委員会活動報告

②提言(骨子案)について ③その他

### 3 機能別委員会の開催とその議題

(1) **国際委員会 国際会議主催等検討分科会** (第5回) (2月3日)

①ヒアリング審査・選定についての事務説明

②平成27年度共同主催保留会議再ヒアリング審査

③平成28年度共同主催国際会議ヒアリング審査 ④審議・選定 ⑤その他

(2) **国際委員会 アジア学術会議分科会** (第15回) (2月4日)

① その他

(3) **科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会** (第27回) (2月17日)

①科学者委員会への報告について

②マスタープラン2014に関する審議 ③その他

(4) **科学と社会委員会 年次報告等検討分科会** (第10回) (2月19日)

①外部評価委員からの評価聴取 ②その他

(5) **国際委員会** (第34回) (2月27日)

①平成26年度代表派遣実施計画(案)について ②国際会議の後援について

### 4 分野別委員会の開催とその議題

#### 第一部担当

(1) **経営学委員会 経営学大学院教育のあり方検討分科会** (第3回) (1月31日)

①札幌学院大学・青森公立大学における大学院経営学教育について藤永委員からの報告

②フリーディスカッション ③その他

(2) 心理学・教育学委員会 心理学分野の参照基準検討分科会 (第5回) (2月6日)

- ①報告書とりまとめ原案の修正について
- ②最終報告案の作成行程について
- ③その他

(3) 社会学委員会 社会変動と若者問題分科会 (第7回) (2月7日)

- ①平成26年度のシンポジウムについて
- ②今期の活動のまとめについて
- ③その他

(4) 政治学委員会 政治過程分科会 (第7回) (2月10日)

- ①政治学委員会・政治過程分科会からの共同提言案の審議
- ②その他

(5) 政治学委員会 政治学分野の参照基準検討分科会 (第6回) (2月10日)

- ①最終案のとりまとめについて
- ②その他

(6) 第一部 福島原発災害後の科学と社会のあり方を問う分科会 (第10回) (2月10日)

- ①「提言」の内容について
- ②論文集作成の予定について
- ③その他

(7) 地域研究委員会 (第5回) (2月11日)

- ①地域研究の学部教育の質向上について (参照基準)
- ②その他

(8) 地域研究委員会 地域研究基盤整備分科会 (第6回) (2月12日)

- ①最終案のとりまとめについて
- ②その他

(9) 経済学委員会 経済学分野の参照基準検討分科会 (第9回) (2月12日)

- ①参照基準 (案) の検討
- その他

(10) 史学委員会 高校歴史教育に関する分科会 (第7回) (2月13日)

- ①今期の提言 (案) について
- ②地理学関係者との共催シンポジウム (案) について
- ③その他

(11) 史学委員会 文化財の保護と活用に関する分科会 (第9回) (2月17日)

- ①提言1の検討
- ②提言2の検討
- ③その他

(12) 社会学委員会 社会統計アーカイヴ分科会 (第9回) (2月17日)

①提言の作成について ②その他

(13) 言語・文学委員会・哲学・史学委員会・地域研究委員会合同アジア研究・対アジア関係に関する分科会 (第8回) (2月21日)

①今期の提言(案)について ②その他

(14) 経営学委員会 経営学大学院教育のあり方検討分科会分科会 (第4回) (2月22日)

①筑波大学社会人大学院(修士課程、博士課程)の理念と現状  
鈴木委員長からの報告

②筑波大学専門職大学院国際経営プロフェッショナル専攻理念と現状  
白田会員からの報告

③フリーディスカッション

(15) 史学委員会 史学分野の参照基準検討分科会 (第6回) (2月24日)

①3月15日のシンポジウムに向けて

②「史学分野の質保証参照基準(素案)の検討」 ③今後のスケジュール

(16) 社会学委員会 討論型世論調査分科会 (第4回) (2月24日)

①調査設計の現状と課題 ②その他

## 第二部担当

(1) 臨床医学委員会 放射線・臨床検査分科会 (第6回) (1月31日)

①RI内用療法提言について ②医療被ばく報告案について ③その他

(2) 臨床医学委員会 老化分科会 (第7回) (2月5日)

①提言のとりまとめについて ②その他

(3) 歯学委員会 (第10回) (2月8日)

①参照基準への対応 ②分科会活動の現状報告と第23期における方針  
③その他

(4) 基礎医学委員会 IUPHAR分科会 (第4回) (2月8日)

①WPC2018京都大会の開催方針について ②その他

(5) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 ワイルドライフサイエンス

**分科会（第4回）（2月9日）**

- ①シンポジウムの開催について
- ②京都大学リーディングプログラムについて
- ③東日本大震災復興計画について
- ④今後の分科会の進め方について

**（6）基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUPAB分科会（第5回）  
生物物理学分科会（第5回）（2月10日）**

- ①日本学術会議・大型研究計画「統合バイオイメージング研究所の設立」について（難波）
- ②平成26年度学術フォーラム「生命情報ビッグデータ時代における新しい生物学」の提案について（諏訪／野地）
- ③国際的学術対応：IUPAB関係
- ④The 18th IBC(IUPAB) Brisbane in 2004 他（永山）
- ⑤今後の方針
- ⑥その他

**（7）臨床医学委員会 運動器分科会（第11回）（2月12日）**

- ①提言（案）について
- ②今後の予定について
- ③その他

**（8）食料科学委員会 水産学分科会（第9回）（2月14日）**

- ①参考人からの報告
- ②第22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープランについて
- ③第21期提言「東日本大震災から新時代の水産業の復興へ」の見直しについて
- ④第23期会員、連携会員の選出について
- ⑤今後の進め方について
- ⑥その他

**（9）臨床医学委員会 感覚器分科会（第5回）（2月21日）**

- ①日本学術会議共催国際眼科学会での感覚器シンポジウムの記録について
- ②平成26年度の感覚器分科会市民公開講座の開催について
- ③その他

**（10）薬学委員会（第3回）（2月24日）**

- ①学術会議の動向（大型施設計画、大規模研究に関するマスタープランの策定、科学研究における健全性の向上に関する検討、次期会員・連携会員選考等）
- ②薬学委員会の活動状況と今後の方針
- ③各分科会の活動状況と今後の方針
- ④その他

**第三部担当**

- (1) 電気電子工学委員会 通信・電子システム分科会 (第7回) (1月31日)  
①次回シンポジウムの企画案について  
②第22期の取りまとめの方針と分科会報告について ③その他
- (2) 総合工学委員会 原子力事故対応分科会 (第15回) (2月7日)  
①分科会報告案についての議論 ②シンポジウムについての議論  
③今後の進め方についての議論 ④その他
- (3) 土木工学・建築学委員会 低炭素建築・都市マネジメント分科会 (第12回) (2月18日)  
①分科会報告書案の審議 ②その他
- (4) 土木工学・建築学委員会 デザイン等の創造性を喚起する社会システム検討分科会 (第12回) (2月18日)  
①提言案に関する討議 ②今後の予定
- (5) 情報学委員会 ソフトウェア工学分科会 (第9回) (2月21日)  
①メモとりまとめに向けての報告と議論 ②その他
- (6) 電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会 (第6回) (2月21日)  
①科学・夢ロードマップの審議 ②大学教育質保証の分野別参照基準の審議  
③制御・パワー工学報告書の審議 ④その他
- (7) 電気電子工学委員会 電気電子工学分野の参照基準検討分科会 (第5回) (2月24日)  
①参照基準原案に関する検討 ②今後のスケジュールの確認 ③その他
- (8) 総合工学委員会 フロンティア人工物分科会 (第6回) (2月24日)  
①6月27日開催シンポジウムについて  
②シンポジウム開催委員会メンバーのご指名  
③前期提言改訂に向けての執筆者のご指名  
④2013年の活動報告 ⑤その他
- (9) 情報学委員会 (第18回) (2月26日)  
①第22期の情報学委員会及び分科会における審議活動について  
②情報学分野の科学・夢ロードマップについて ③その他



- (10) 情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会 (第5回) (2月26日)  
① 対外報告について ② CODATA 役員の推薦について ③ その他
- (11) 情報学委員会 ITメディア社会基盤・震災時メディアアーカイブ分科会 (第5回) (2月26日)  
① 世界工学会議 WCC 2015 に向けた英語での情報発信について  
② 情報交換 ③ その他
- (12) 情報学委員会 情報ネットワーク社会基盤分科会 (第6回) (2月26日)  
① 今期の活動の記録について ② その他
- (13) 情報学委員会 情報科学技術教育分科会 (第6回) (2月26日)  
① 参照基準について ② その他
- (14) 情報学委員会 安全・安心社会と情報技術分科会 (第6回) (2月26日)  
① 大型研究計画マスタープランについて  
② 企画小委員会設立について ③ 提言について ④ その他
- (15) 情報学委員会 環境知能分科会 (第6回) (2月26日)  
① 第22期環境知能分科会活動のまとめについて  
② 今後の分科会実施計画について ③ その他
- (16) 土木工学・建築学委員会 大学等研究・教育キャンパス整備に関する検討分科会 (第9回) (2月26日)  
① 提言案についての討議 ② 今後の予定
- (17) 情報学委員会 E-サイエンス・データ中心科学分科会 (第5回) (2月26日)  
① 分科会報告または提言案の策定 ② その他
- (18) 数理科学委員会 数理統計学分科会 (第5回) (2月27日)  
① 数理統計学分科会からの提言内容と文案について ② その他
- (19) 総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会 (第7回) (2月28日)  
① 大型学術研究提案に関する報告 ② 各小委員会からの活動報告

③第22期の活動のまとめについて ④その他

## 5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 大学教育の分野別質保証委員会 (第7回) (1月31日)

①報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 土木工学・建築学分野 (案)」について

②その他

(2) 日本学術会議の第三者評価機能に関する検討委員会 (第5回) (2月14日)

①提言案に関する審議 ②その他

(3) 高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会 暫定保管に関する技術的分科会 (第2回) (2月17日)

①ガラス固化体及び使用済み燃料の安全な保管 (貯蔵) に関する技術の現状と課題

②技術分科会の取りまとめ事項に関する論点整理 ③その他

(4) 高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会 暫定保管に関する技術的分科会 (第3回) (2月24日)

① 暫定保管施設の安全確保に係る立地条件の技術的分科会

・地質地盤条件

・むつ中間貯蔵と六ヶ所再処理HLW保管施設の安全審査

②その他

(5) 科学者からの自律的な科学情報の発信の在り方検討委員会 (第4回) (2月25日)

①提言案に関する審議 ②その他

## 6 サイエンスカフェの開催

日 時：2月21日 (金) 18:30~20:30

場 所：サロン・ド・FUZAMBO Folio

テーマ：「新たな都市インフラと建築の可能性<復興計画とオリンピックそしてエネルギー>」

ゲスト：伊澤 岬（日本大学理工学部交通システム工学科特任教授、太陽エネルギーデザイン研究会会長）

コーディネーター：室伏 きみ子（日本学術会議会員、お茶の水女子大学名誉教授）

日 時：2月15日（土）16:00～18:00

場 所：北海道教育大学（旭川校）

テーマ：「フューチャー・アースー未来の地球」への地域からの取り組みを考える」

講師：氷見山幸夫（日本学術会議会員、北海道教育大学教授）

## 7 総合科学技術会議報告

### 1. 本会議

2月14日 出席

### 2. 専門調査会

2月 6日 第12回科学技術イノベーション政策推進専門調査会 欠席

### 3. 総合科学技術会議有識者議員会合

2月 6日 休会

2月13日 出席

2月20日 出席

2月27日 出席

## 8 慶弔

### ・ご逝去

小寺 彰（こてら あきら） 2月10日 享年61歳

元連携会員（第20期） 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授

藤本 彰三（ふじもと あきみ） 2月16日 享年64歳

連携会員（第21-22期） 東京農業大学国際食料情報学部教授

## 9 インパクトレポート

## 提言「科学・技術を担う将来世代の育成方策～教育と科学・技術イノベーションの一体的振興のすすめ～」インパクト・レポート

### 1 提言内容

#### ○新リベラルアーツ教育の必要性とその方策

・科学・技術に関する基本的な素養と系統的な知識を育み、科学・技術と経済・社会や自然環境などとの多様な関係について理解を深め、自ら考え判断し活用する力と種々の問題や課題に適切に対応していく力を育むための「科学・技術リベラルアーツ教育」を、学校教育の各段階にふさわしい内容と方法で推進して行くべきである。

#### ○初等・中等・高等教育における各教育段階の間の橋渡し機能の強化

・教育界は、21世紀において科学・技術の創造を基盤として持続可能な発展を実現するために必要とされる多様な人材像を学术界、産業界と共有し、日本学術会議が作成した「参照基準」に基づき、学术界、産業界とも協働しつつ、「素養と能力」の質の保証を行う。また、文系と理系とに拘わらず、伝統的なりベラルアーツに加えて、科学・技術リベラルアーツの素養の具備も重視することによって、大学等の入学試験の質が保証されるべきである。

#### ○各教育段階の間の橋渡し機能の強化と科学・技術イノベーション強化との一体的推進機能の提言

・持続可能な科学・技術イノベーション創出能力の育成には、「初等・中等教育から高等教育と社会人教育」にまで踏み込んだ一貫した教育政策と、科学・技術政策との協働が不可欠である。日本の教育全体を世界レベルに向上させる要として、「教育振興と科学・技術イノベーション振興との一体的推進政策」を打ち出すべきである。

#### ○キャリア開発支援室の設置

・科学・技術の推進にポスドクの有効活用は必須であることから、国や研究資金を出している団体に、キャリア開発支援室を設置すべきである。さらに、各大学、研究所にも同様の支援室を設置することが期待される。

#### ○セーフティネットの構築

・政府は、任期付きの研究者が雇用期間を過ぎて次の研究職ポストを得られない場合、半年間一定額（雇用時の8割程度）の雇用保険的な支援経費を元の雇用主が支払うこととし、それを間接経費で負担できる制度を設けるべきである。また、改正労働契約法（2012年8月10日公布）の遵守をするとともに、5年に満たない有期労働においても上記の失業保険給付期間が適用されるべきである。

#### ○企業への税制優遇措置と大学と企業との交流促進の施策

・企業には、博士学位保持者を新たに雇用する場合の税制優遇措置を設けることにより、先進国並みの高学歴社会を目指すべきである。また企業や官公庁から大学や研究所に人材を派遣する機会を拡充し、博士号の取得を可能にするなど企業側にもメリットのあるシステム作りをする。同時に、国が率先して博士人材を活用するためには、国家公務員総合職試験に博士学位保持者用の試験制度を別個に導入することが望ましい。

#### ○総合科学技術・イノベーション・教育一体推進会議の創設

・「教育と科学・技術イノベーションの一体的振興政策」と、その司令塔機能の構築を目的として、総合科学技術会議を「総合科学技術・イノベーション・教育一体推進会議」に改組・設置することを提言する。

なお、本国家的課題の緊急性を鑑み、閣議決定によって、省庁付設の審議会とは別に、省庁横断的な総合的審議会を内閣官房の中に設置し、従来の省庁別の審議会とも連携しつつ、基本的な方針と政策・施策を審議することも提言する。

## 2 提言の年月日

平成 25 年 2 月 25 日

## 3 社会的インパクト

### (1) 政策

本提言は、文科省の関係局長及び総合科学技術会議議員他にも配信するとともに、科学技術・イノベーション担当大臣、文部科学大臣、同副大臣にも説明がなされ、科学技術・学術審議会の審議資料において基本的な考え方が取り入れられる等の成果を挙げたが、文科省の政策方針や総合科学技術会議、並びに、教育再生会議等の公式の政策会議における正式の議題設定にされるには、至っていない。

この点が、本課題別委員会が会長の特命で発足した背景に鑑みると、日本学術会議としての意思の表出の社会的インパクトの向上課題であると考ええる。

### (2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

本提言を基に、日本学術会議は学術フォーラム「科学技術を担う将来世代の育成方策を考える～教育と科学技術を価値創造につなぐために～」を平成 25 年 8 月 12 日に学術会議講堂で開催し、約 200 名の市民、学協会、研究教育関係者の参加を得て、大変活発な意見交換の場を持つことが出来た。本課題に対する日本学術会議の問題意識と、その解決に向けたセ

ンターピンの提言に対する社会からの理解を広めることが出来たことは、評価される。

今後とも継続的な活動を行い、「教育と科学・技術イノベーションの一体的振興」を大切にする文化の醸成を図ることが大切であろう。

また、科学技術振興機構科学コミュニケーションセンターは、シンポジウム「科学技術の智：分野を超えて新しい価値観をつくる」を平成25年11月10日サイエンスアゴラの企画として東京国際交流館において開催し、柘植綾夫氏（帰国便の遅延により当日北原和夫氏が代読）の講演「科学技術リベラルアーツのすすめ」、山口栄一氏の講演「データ分析から見た素養とイノベーション」、松尾泰樹氏の講演「人材政策」などにより、本報告の内容を広く訴えた。

#### 4 メディア

公式のメディアでは、科学新聞（平成25年3月15日）にて提言が報道されたのにとどまるが、分科会委員の各メンバーはそれぞれの社会的立場での折々の公式の発言の機会に本提言を引用し、ポイントを説明することに努めた。これからも、この活動を通して本提言を風化させずに、必要な折々に、メディアに対して本提言の存在を示していくことが必要である。

#### 5 考察と自己点検

##### 5.1 本課題別委員会設置の経緯に照らした考察と自己点検

会長特命により本課題別委員会に課せられた“科学技術を担う将来世代の人材育成問題”は、日本学術会議の長い歴史において多面的に検討が繰り返されてきた課題であり、また、その多岐にわたる数多くの提言が、実効ある教育改革にまでつながってきていないことも、現在の実態を見ると否めない事実として受け止めざるを得ない。

このような極めて難しい命題を担った本課題別委員会は、一部、二部、三部からの幅広い分野の委員で構成され、それぞれの専門分野とキャリアによって、本課題別委員会の命題に対して多種多様な見解を持ちながらも、絶えず俯瞰的、総合的視野を持ってこの難問に対して取り組んだ。

本課題別委員会では第一段階（平成23年2月—9月）として、まず、従来の関連既提言の中から、各委員の視点から「重要な提言である」と評価する提言を抽出し、各教育段階ごとにデータ・ベース化して集約する作業から始めた。そこには、“本課題別委員会のアウトカムとして想定する各委員が最重要視する「センターピンの提言：この提言を実行すれば、それに従属する必要な改革事象は、自ずと改革されるという、トップ・レイヤー的改革」の源がある”との構想があった。

この第一段階の「重要な提言集」を初・中等、高等教育段階ごとに分類して体系化し、「記録：SCJ第21期230913-21970000-005、平成23年9月22日」として、アーカイブ化した。この種のデータ・ベースは日本学術会議としては、初めてであろう。

これを基に本課題別委員会では、第二段階（平成23年12月—平成24年12月）として「今まで様々な貴重な提言がなされていながら、その実行が何故になされていないか？ この改革をすれば、他の改革は自ずと改革が進む“センターピンの改革”は何か？まさに本課題別委員会の提言は、この“センターピンの改革を提言すべき”」との方針を立てた。

この方針に立ち、第一段階の「重要な提言集」を基本にしながらも、各委員自らの経験と判断に基づき、「政策策定現場で、あるいは教育・研究現場で改革すべきトップ・レイヤーの仕組み改革：“センターピンの改革”に絞った提言」に絞ってまとめのが、本提言である。

本来ならば“センターピン”は1—3本であるべきであるが、本提言では7本にまでしか絞りこめなかったことは、今後の検討の機会に委ねたい。

日本学術会議の従来諸提言の策定において、このような“センターピンの発想”に立って優先度を決めた提言は少ないのではないだろうか。

#### 5. 2 提言の社会的インパクトの効果の向上についての考察と自己点検

3項および4項において記述したように、本課題別委員会および各委員自らは日本学術会議の一員（アンバサダー）として、本提言の社会への発信に貢献をしてきており、これからの社会活動においても、それぞれの立場で提言を引用しつつ発信を継続するが、本提言の社会インパクト効果の向上について、それだけの活動で良いかとの懸念を持つ。

換言するに、本課題別委員会は会長の特命事項のもと、幹事会の決定によるトップダウン的に設置された、いわばオール日本学術会議的な課題別委員会であり、その成果である本提言も、会長及び幹事会リードの下で、オール日本学術会議的な活用がもっと戦略的に、持続的になされるべきではないだろうか。

平成26年1月26日

インパクト・レポート作成責任者

科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会

委員長 柘植 綾夫